

令和3年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
管理栄養士養成施設における管理栄養士の卒前・卒後教育の充実に向けた研究
分担研究報告書

管理栄養士の学歴及び職域と年収に関する疫学調査

研究協力者	飯田 綾香	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究協力者	片岡 沙織	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究分担者	鈴木 志保子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究分担者	斎藤 トシ子	新潟医療福祉大学健康科学部
研究分担者	遠又 靖丈	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究代表者	中村 丁次	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部

研究要旨

【背景及び目的】2000年の栄養士法改正により、管理栄養士の業務として、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導等と明示されて以降、医療・介護領域をはじめ、管理栄養士の職務のあり方や教育は大きく変化している。本研究は、管理栄養士有資格者を対象に、学歴及び職域等の実態を年収面から検討することを目的とした。

【方法】本研究は、公益社団法人日本栄養士会が2018年11月に実施した「管理栄養士・栄養士資格取得者の就業の実態に関する調査研究」のインターネット調査のデータを二次利用した。管理栄養士有資格者かつ管理栄養士・栄養士として就業している者8,227名を対象とした。年収は階級値をとり、最終学歴、職域等ごとに年収分布を求めた。さらに、最終学歴が大学である者(5,012名)を対象に、主たる業務に必要な資格と職域別の年収について比較検討した。本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号18655-210604)。

【結果及び考察】全対象者の年収分布の中央値は、350万円であった。主たる業務に必要な資格(栄養士、管理栄養士)の年収中央値に差は認められなかった。主たる業務に必要な資格が栄養士である者の77.6%は、年収中央値の高い食育・教育の職域に属していたことから、職域が年収に影響している可能性が示唆された。最終学歴別の年収分布は有意差が認められ、大学院博士(年収中央値650万円)、大学院修士及び短期大学(年収中央値450万円)の順に高かった。年代ごとにみると、専門学校、短期大学、専攻科、大学の年収中央値に差は認められなかった。また、短期大学の平均年齢(47.0±8.6歳)は大学(34.9±10.2歳)と比べ高かった。そこで、性・年齢を調整し、301～500万円と501万円以上のカテゴリに分けて解析した結果、最終学歴において、専門学校を基準とした場合、大学の一部(501万円以上のカテゴリ)と大学院修士、大学院博士でオッズ比が有意に高かった。また、職域においても、医療を基準とした場合、食育・教育及び行政でオッズ比が有意に高かった。以上より、年収には学歴及び職域が影響していることが示唆された。

A. 研究目的

2000年の栄養士法改正により、管理栄養士の業務として、「管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状態、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状態、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者」と明示されて以降、医療・介護領域をはじめ、管理栄養士の職務のあり方や

教育は大きく変化している。管理栄養士の職務の実態を様々な面から把握することは、次世代の管理栄養士養成教育を検討する上での重要な資料となる。

そこで本研究は、既存の調査データを活用し、管理栄養士有資格者を対象に、学歴及び職域の実態を年収面から検討することを目的とした。

B. 研究方法

本研究は、2018年に公益社団法人日本栄養士会(以下、日本栄養士会)が実施した「管理栄養士・栄養士資格取得者の就業の実態に関する調査研究」のインターネット調査

のデータを二次利用した。

1. 管理栄養士有資格者に関する検討

「管理栄養士・栄養士資格取得者の就業の実態に関する調査研究」は、日本栄養士会の Web サイト上で、2018年11月1日から2018年11月30日（12月27日へ延長）の期間に、全国の管理栄養士・栄養士免許取得者を対象に実施された。本研究は、管理栄養士の資格を有しており、管理栄養士・栄養士として常勤で就業している者 8,227 名を解析対象とした。

(1) 調査項目

本研究は、「管理栄養士・栄養士資格取得者の就業の実態に関する調査研究」のデータのうち、以下の項目を用いた。

- ・性別（女性、男性）
- ・年齢（歳）
- ・勤務地域（都道府県名）
- ・最終学歴（専門学校、短期大学、専攻科、大学、大学院修士、大学院博士）
- ・専門職としての資格手当（有り、無し、不詳）
- ・昇給制度等の優遇措置（有り、無し、不詳）
- ・勤務先
- ・現在の勤務先の勤務年数（3 年未満、3~5 年未満、5~10 年未満、10~15 年未満、15~20 年未満、20~25 年未満、25~30 年未満、30 年以上）
- ・現在の勤務先の年収（～100 万円、101 万円～200 万円、201 万円～300 万円、301 万円～400 万円、401 万円～500 万円、501 万円～600 万円、601 万円～700 万円、701 万円～800 万円、801 万円～900 万円、901 万円～1000 万円、1001 万円～）

勤務先は選択肢の他に、「教育（その他養成施設）」及び「医療（歯科医院）」を新規に追加し、勤務先で「その他」と回答した者のうち、自由記述の内容が「教育（その他養成施設）」及び「医療（歯科医院）」に該当すると判断された者は各勤務先に振り分けた。さらに、勤務先を 9 つの職域（医療、福祉、食育・教育、給食、行政、企業、研究・教育、フリーランス等、その他）に分類した。

年収は各階級の階級値をとり、比較検討した。

なお、「管理栄養士・栄養士資格取得者の就業の実態に関する調査研究」は、現在の勤務先の勤務年数のみの調査であり、転職を含めた管理栄養士・栄養士としての勤務年

数は不明であった。学歴についても、最終学歴の調査のみであり、管理栄養士養成課程卒業、栄養士養成課程卒業の別は調査されていない。対象者が管理栄養士養成課程卒業あるいは栄養士養成課程卒業かの区別はできなかった。

2. 大学卒業者に関する検討

最終学歴が大学である者（5,012 名）を対象に、管理栄養士有資格者に関する検討と同様、主たる業務に必要な資格と職域別の年収について比較検討した。

3. 統計解析

統計処理は、EZR on R commander（programmed by Y.Kanda Ver.1.50）を用い、Mann-Whitney U 検定、Kruskal-Wallis 検定を行った。有意水準は 5%未満とした。

4. 倫理面への配慮

本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号 18655-210604）。

C. 研究結果

1. 管理栄養士有資格者に関する検討

(1) 基本属性

対象者 8,227 名のうち、女性は 93.9%、男性は 6.1%であった。対象者の主たる業務に必要なとする資格、年代、最終学歴、勤務年数、勤務地域を表 1 に示した。

主たる業務に必要なとする資格の割合は、栄養士資格 20.0%、管理栄養士資格 80.0%であった。学歴は、大学の割合が最も高く（60.9%）、次いで短期大学（23.7%）であった。現在の勤務先の勤務年数は、3 年未満の割合が最も高かった（27.1%）。勤務地域は関東が最も高かった（24.1%）。

職域及び勤務先を表 2 に示した。職域は、医療 35.2%、食育・教育 21.5%、福祉 15.3%の順に多かった。

資格手当及び昇給制度等優遇措置の有無を表 3 に示した。資格手当の有無の割合は、「ある」50.1%、「ない」41.6%、「わからない」8.3%であった。昇給制度等優遇措置の有無の割合は、「ある」43.9%、「ない」36.8%、「わからない」19.2%であった。

年収分布を表 4 に示した。年収階級は 301 万円～400 万円が最も多く（30.0%）、全体の年収階級値の中央値は、350 万円であった。

(2) 主たる業務に必要なとする資格別年収

主たる業務に必要なとする資格（栄養士、管理栄養士）別年収を表 5 に示した。栄養士と管理栄養士の年収中央値は、いずれも 350 万円であり、有意差は認められなかった（ $p=0.773$ ）。

主たる業務に必要なとする資格と職域を表 6 に示した。栄養士は食育・教育が最も多く（77.6%）、管理栄養士は医療が最も多かった（43.3%）。

(3) 最終学歴別年収

最終学歴別年収を表 7 に示した。最終学歴別年収中央値は有意差が認められ（ $p<0.001$ ）、大学院博士（650 万円）が最も高く、次いで大学院修士及び短期大学（450 万円）の順に高かった。また、平均年齢は大学院博士（ 47.3 ± 9.8 歳）、短期大学（ 47.0 ± 8.6 歳）の順に高く、大学（ 34.9 ± 10.2 歳）が最も低かった。

年代別にみると、全ての年代で有意差が認められた（ $p<0.001$ ）。年代別に年収中央値を比較すると、いずれの年代においても大学院博士、大学院修士の年収が高値を示した。大学、専攻科、短期大学、専門学校の年代別年収分布に明確な違いは認められなかった。

(4) 職域別年収

職域別年収を表 8 に示した。職域別年収中央値は有意差が認められ（ $p<0.001$ ）、研究・教育（550 万円）、食育・教育及び行政（450 万円）の順に高値を示した。

(5) 職域・最終学歴別年収

職域・最終学歴別年収を表 9 に示した。最終学歴によって年収中央値に有意差が認められた職域は、医療、福祉、食育・教育、給食、行政、研究・教育であった（ $p<0.001$ ）。年収分布が最終学歴の順に高値を示したのは研究・教育のみであった。

2. 多項ロジスティック回帰分析による多変量調整を実施した場合の解析結果

前述した通り、例えば特定の職域で平均年齢が高く、年齢が高いことで年収が高くなっているといった交絡の可能性が考えられる。そこで、回答者特性である主たる業務に必要な資格、最終学歴、職域について、性・年齢を調整した場合のオッズ比と 95%信頼区間を算出した結果を、表 10 に示した。

主たる業務に必要な資格については、「栄養士」と比べた「管理栄養士」の 301~500

万円と 501 万円以上の性・年齢調整オッズ比は有意に低く、より高い年収カテゴリーの者が少なかった。最終学歴については、「専門学校」を基準とした場合、「大学院（修士）」と「大学院（博士）」は 301~500 万円と 501 万円以上のいずれの性・年齢調整オッズ比も有意に高かった。また、「大学」でも 501 万円以上のカテゴリのみ有意に高かった。職域については、「医療」を基準とした場合、「福祉」と「フリーランス等」では 301~500 万円と 501 万円以上のいずれの性・年齢調整オッズ比も有意に低く、「食育・教育」と「行政」ではいずれも有意に高かった。また、「研究・教育」では、501 万円以上の性・年齢調整オッズ比のみ高かった。

また、性・年齢に加えて 3 つの回答者特性（主たる業務に必要な資格、最終学歴、職域）をモデルに同時投入をした場合のオッズ比と 95%信頼区間を算出した結果も、表 10 に示した。主たる業務に必要な資格で「管理栄養士」である方が、有意にオッズ比が高くなったことと、職域の「研究・教育」で有意な関連が見られなくなったことの 2 点が性・年齢調整の結果と異なっていたが、その他の結果は性・年齢調整モデルと多変量調整モデルで本質的に変わらなかった。

D. 考察

1. 管理栄養士の年収

本研究で対象とした管理栄養士有資格者の年収階級値の中央値（以下、年収中央値）は 350 万円であった。令和 2 年賃金構造基本統計調査¹⁾より、「所定内給与額×1.2ヶ月+年間賞与その他特別支給給与」で算出した栄養士の年収は 361.9 万円であり、本研究と同等の年収を示した。

賃金構造基本統計調査は日本標準職業分類²⁾に基づいており、栄養士と管理栄養士の区別がなく、「栄養士」としての報告となっている。2000 年の栄養士法改正により、管理栄養士の業務として、傷病者に対する栄養指導等が明文化され、管理栄養士に一層高度な知識や技能が求められるようになった。本研究は管理栄養士有資格者のみを対象としたことから、年収は栄養士が含まれる令和 2 年賃金構造基本統計調査¹⁾よりも高値を示すことが予想されたが、対象者の年収中央値は 350 万円と変化が認められなかった。

そこで、主たる業務に必要なとする資格による比較を行ったが、栄養士と管理栄養士の年収中央値に差は認められなかった。主

たる業務に栄養士資格を必要とする者のうち、77.6%が食育・教育の職域に属していた（表 6）。食育・教育は他の職域と比較して、年収中央値が 450 万円と高値を示していた（表 8）。本研究において、栄養士と管理栄養士に年収差が認められなかった理由として、職域が関係している可能性が考えられる。食育・教育の職域は栄養教諭や学校栄養職員など、いわゆる公務員である者が多く該当する。地方公務員の平均年収は約 603.7 万円（令和 3 年地方公務員給与実態調査結果等の概要³⁾の全職種平均給与月額〔国比較ベース〕、国家公務員一般職のボーナス〔期末・勤勉手当〕4.30 ヶ月より算出）である。令和 2 年賃金構造基本統計調査⁴⁾より算出した保健・医療・福祉職の給与は、前述した通り栄養士 361.9 万円、さらに看護師 456.7 万円、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 408.5 万円、ケアマネージャー 369.7 万円であり、地方公務員の平均年収と比較し、約 150 万円～230 万円の差が存在していた。以上より、主たる業務に必要な資格が栄養士にもかかわらず、管理栄養士と同じ年収中央値を示した理由として、栄養士の大部分の職域が食育・教育であること、食育・教育の職域の給与の基準が栄養士職というよりも、公務員の基準によるものが大きいと推測された。

2. 最終学歴と年収

最終学歴別年収は、大学院博士（650 万円）が最も高く、次いで大学院修士及び短期大学（450 万円）であった。

令和 2 年度賃金構造基本統計調査の学歴別にみた賃金は、大学院、大学、高専・短大、専門学校、高校の順に高値を示している⁴⁾。しかし、本研究では年収中央値が学歴順ではなく、大学院修士と短期大学が同じ 450 万円を示し、大学は専門学校、専攻科と同じ 350 万円であった（表 7）。大学の年収中央値が専門学校、専攻科と差が認められなかった理由として、年齢が影響していることが考えられる。本研究において、最終学歴が大学である者の約 7 割は 20～30 代であることから、最終学歴よりも年齢が年収に影響している可能性がある。実際、短期大学の平均年齢は 47.0±8.6 歳と高く、大学の平均年齢が 34.9±10.2 歳と低かった。短期大学の年収中央値が高値を示したのは、平均年齢の高さ、いわゆる日本型雇用慣行による影響もあると考えられる。しかし、最終学歴の年収を年代別に見た場合にも、大学は短

期大学及び専門学校と差がなかったことから、職域や経験（勤務年数）等の他の要因を考慮したより詳細な検討が必要である。

管理栄養士有資格者であってもその教育の背景は多様である。卒業した養成施設が管理栄養士養成施設であるのか、栄養士養成施設であるのかによって、教育カリキュラムは大きく異なる。管理栄養士免許は、管理栄養士養成施設で学び、管理栄養士国家試験に合格する、あるいは、栄養士養成施設卒業（栄養士免許取得）後に栄養士として規定の年数の実務経験を積み、管理栄養士国家試験に合格することで取得することができる（図 1）。すなわち、短期大学や専門学校卒であっても、管理栄養士養成施設（大学）と同様に管理栄養士免許は取得可能である。本研究において、大学までの学歴の違いは年収にほとんど影響しなかった。どのような過程を経て管理栄養士となったのか、そのフローは多様であるが、大学までは学歴よりも管理栄養士資格を有しているかという点での雇用となっていることも理由の一つであると考えられる。

一方、大学院博士及び大学院修士の年収中央値は、いずれの年代でも高値を示した。以上より、管理栄養士の年収は最終学歴が大学院修士以上で高くなると考えられる。

3. 多項ロジスティック回帰分析による年収の検討

前述した通り、年収は年齢や職域等による交絡の可能性が考えられることから、多項ロジスティック回帰分析を実施した。性・年齢調整オッズ比及び性・年齢・主たる業務に必要な資格・最終学歴・職域を説明変数としたオッズ比は、最終学歴において、専門学校を基準とした場合、大学は 501 万円以上のカテゴリのみ、大学院修士と大学院博士は 301～500 万円と 501 万円以上のいずれのカテゴリにおいても有意に高かった。職域においても、医療を基準とした場合、食育・教育と行政はいずれもオッズ比が有意に高かった。以上より、性・年齢・主たる業務に必要な資格・最終学歴・職域を考慮した場合においても、年収が高くなるのは、最終学歴が大学院修士以上であること、職域が食育・教育あるいは行政であることが影響していると考えられる。また、年収は管理栄養士としての勤務年数も影響していると考えられるが、本調査では不明であり、今後、経験（勤務年数）等の他の要因を考慮したより詳細な検討が必要である。

E. 結論

本研究は管理栄養士有資格者を対象に、学歴及び職域等の実態を年収面から検討した。その結果、管理栄養士有資格者の年収中央値は 350 万円であった。主たる業務に必要な資格（栄養士、管理栄養士）による年収中央値の差は認められなかった。学歴による年収は、大学院博士に次いで大学院修士及び短期大学の年収中央値が高かった。しかし、性・年齢を調整して解析した結果、最終学歴が大学以上において年収増に寄与することが考えられた。また、職域による年収は性・年齢を調整した場合においても、食育・教育及び行政で高かった。以上より、年収には学歴及び職域が影響していることが示唆された。

参考文献

1) 厚生労働省 (2020) : 令和 2 年度賃金構造基本統計調査 結果の概況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2020/index.html> (参照日 : 2021.12.7)

2) 総務省 (2009) : 日本標準職業分類 (平成 21 年 12 月統計基準設定) 分類項目名.
https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/kou_h21.ht (参照日 : 2021.12.19)

3) 総務省 (2021) : 令和 3 年地方公務員給与実態調査結果等の概要.
https://www.soumu.go.jp/main_content/000784529.pdf (参照日 : 2022.3.15)

4) 厚生労働省 (2020) : 令和 2 年度賃金構造基本統計調査 学歴別にみた賃金.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2020/dl/03.pdf> (参照日 : 2021.12.19)

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況
なし

表 1. 基本属性

	全体(n=8,227)	
	n	割合
性別		
男性	498	6.1%
女性	7,729	93.9%
主たる業務に必要とする資格		
栄養士	1,648	20.0%
管理栄養士	6,579	80.0%
年代		
20歳代	2,223	27.0%
30歳代	2,188	26.6%
40歳代	2,107	25.6%
50歳代	1,455	17.7%
60歳代	254	3.1%
最終学歴		
専門学校	515	6.3%
短期大学	1,946	23.7%
専攻科	129	1.6%
大学	5,012	60.9%
大学院修士	474	5.8%
大学院博士	151	1.8%
勤務年数		
3年未満	2,232	27.1%
3～5年未満	1,217	14.8%
5～10年未満	1,558	18.9%
10～15年未満	1,060	12.9%
15～20年未満	636	7.7%
20～25年未満	580	7.0%
25～30年未満	449	5.5%
30年以上	495	6.0%
勤務地域		
北海道・東北	951	11.6%
関東	1,982	24.1%
中部	1,622	19.7%
近畿	1,135	13.8%
中国・四国	1,155	14.0%
九州・沖縄	1,382	16.8%

表 2. 職域及び勤務先

職域 勤務先	全体(n=8,227)	
	n	割合
医療	2,898	35.2%
医療(病院)	2,628	31.9%
医療(診療所、クリニック、健診センター等)	261	3.2%
医療(歯科医院)	9	0.1%
福祉	1,261	15.3%
福祉(介護保険施設、障害者支援施設など)	1,261	15.3%
食育・教育	1,765	21.5%
福祉(保育所、幼稚園、こども園、児童福祉施設など)	288	3.5%
教育(小・中学校栄養教諭・栄養職員)	1,470	17.9%
教育(高等学校)	7	0.1%
給食	361	4.4%
受託給食会社	336	4.1%
直営の社員食堂や療などの集団給食施設	25	0.3%
行政	931	11.3%
保健衛生(保健所、市町村保健センター等)	931	11.3%
企業	409	5.0%
保健衛生(民間の保健施設など)	62	0.8%
食品企業	72	0.9%
製薬企業	5	0.1%
薬局・ドラッグストア	186	2.3%
スポーツ関連施設	9	0.1%
非営利団体(公益活動等の団体)	27	0.3%
情報サービス(新聞、出版、インターネットサービスなど)	24	0.3%
飲食サービス(食堂、飲食店、配食サービスなど)	24	0.3%
研究・教育	470	5.7%
教育(栄養士・管理栄養士養成施設)	418	5.1%
学術・研究機関	33	0.4%
教育(その他養成施設)	19	0.2%
フリーランス等	111	1.3%
地域活動,フリーランス,自営	111	1.3%
その他	21	0.3%
その他	21	0.3%

表 3. 資格手当及び昇給制度等優遇措置

	全体(n=8,227)	
	n	割合
資格手当		
ある	4,119	50.1%
ない	3,423	41.6%
わからない	685	8.3%
昇給制度等優遇措置		
ある	3,614	43.9%
ない	3,030	36.8%
わからない	1,583	19.2%

表 4. 年収分布

年収階級	階級値	全体(n=8,227)	
		n	割合
～100万円	50	67	0.8%
101万円～200万円	150	346	4.2%
201万円～300万円	250	1,944	23.6%
301万円～400万円	350	2,472	30.0%
401万円～500万円	450	1,437	17.5%
501万円～600万円	550	857	10.4%
601万円～700万円	650	607	7.4%
701万円～800万円	750	336	4.1%
801万円～900万円	850	91	1.1%
901万円～1000万円	950	33	0.4%
1001万円～	1,050	37	0.4%

表 5. 主たる業務に必要な資格

年代	栄養士		管理栄養士		p値 Mann-Whitney U検定
	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	
全体	1,648	350	6,579	350	0.773
20歳代	648	250	1,575	250	0.056
30歳代	430	350	1,758	350	<0.001
40歳代	329	450	1,778	450	<0.001
50歳代	220	600	1,235	550	0.002
60歳代	21	350	233	450	0.253

表 6. 主たる業務に必要な資格と職域

	栄養士		管理栄養士	
	n	割合	n	割合
医療	49	3.0%	2849	43.3%
福祉	89	5.4%	1172	17.8%
食育・教育	1279	77.6%	486	7.4%
給食	140	8.5%	221	3.4%
行政	59	3.6%	872	13.3%
企業	21	1.3%	388	5.9%
研究・教育	8	0.5%	462	7.0%
フリーランス等	2	0.1%	109	1.7%
その他	1	0.1%	20	0.3%

表 7. 最終学歴別年収

年代	専門学校		短期大学		専攻科		大学		大学院(修士)		大学院(博士)		p値 Kruskal-Wallis 検定
	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	
全体	515	350	1,946	450	129	350	5,012	350	474	450	151	650	<0.001
20歳代	49	250	62	250	10	250	2,014	250	83	350	5	350	<0.001
30歳代	118	350	306	350	54	350	1,521	350	165	450	24	550	<0.001
40歳代	193	450	781	450	45	350	904	450	125	550	59	650	<0.001
50歳代	139	450	692	550	19	450	485	550	76	650	44	850	<0.001
60歳代	16	450	105	350	1	150	88	450	25	650	19	850	<0.001

表 8. 職域別年収

年代	医療		福祉		食育・教育		給食		行政		企業		研究・教育		フリーランス等		その他		p値 Kruskal- Wallis検定
	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	
全体	2,898	350	1,261	350	1,765	450	361	350	931	450	409	350	470	550	111	150	21	350	<0.001
20歳代	710	250	286	250	573	350	178	250	197	250	202	250	56	250	9	250	12	350	<0.001
30歳代	824	350	363	350	425	450	113	350	230	350	104	350	87	450	35	150	7	450	<0.001
40歳代	790	450	366	350	416	550	45	350	267	550	63	450	118	550	41	150	1	450	<0.001
50歳代	518	550	208	350	321	650	24	550	216	650	30	550	120	650	17	50	1	350	<0.001
60歳代	56	350	38	350	30	350	1	350	21	550	10	350	89	650	9	150	-	-	<0.001

表9. 職域・最終学歴別年収

職域	専門学校		短期大学		専攻科		大学		大学院修士		大学院博士		p値 Kruskal- Wallis検定
	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	n	年収中央値 (万円)	
医療	204	450	783	350	50	350	1,691	350	155	350	15	450	<0.001
福祉	134	350	398	350	25	350	685	350	18	350	1	450	<0.001
食育・教育	85	550	413	550	21	450	1,198	350	46	450	2	350	<0.001
給食	19	350	64	350	5	250	262	250	11	350	-	-	<0.001
行政	32	450	182	550	18	400	639	450	57	450	3	750	<0.001
企業	21	350	49	350	2	300	315	350	20	350	2	400	0.052
研究・教育	10	450	27	450	6	400	140	450	159	550	128	700	<0.001
フリーランス等	8	50	28	50	2	100	67	150	6	250	-	-	0.262
その他	2	400	2	400	0	-	15	350	2	550	-	-	0.112

表10. 管理栄養士・栄養士の特性と年取との関連：多項ロジスティック回帰分析

	年取						組オッズ比 ^a						性・年齢調整オッズ比 ^b						多変量調整オッズ比 ^c					
	300万円以下 (参照カテゴリ)		301～500万円		501万円以上		301～500万円		501万円以上		301～500万円		501万円以上		301～500万円		501万円以上		301～500万円		501万円以上			
	n	%	n	%	n	%	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)	OR	(95%CI)		
主たる業務に必要な資格																								
栄養士																								
管理栄養士	1861	28.3%	3158	48.0%	1560	23.7%	1.12	(0.99-1.27)	1.04	(0.89-1.20)	1.00	(基準群)	0.80	(0.70-0.92)	1.00	(基準群)	0.44	(0.36-0.53)	1.50	(1.22-1.85)	2.01	(1.51-2.68)		
最終学歴																								
専門学校	113	21.9%	268	52.0%	134	26.0%	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)		
短期大学	379	19.5%	955	49.1%	612	31.4%	1.06	(0.83-1.36)	1.36	(1.03-1.80)	0.86	(0.66-1.13)	1.01	(0.73-1.41)	0.81	(0.61-1.06)	1.11	(0.86-1.44)	1.72	(1.21-2.44)	1.38	(0.67-2.84)		
大学	1762	35.2%	2379	47.5%	871	17.4%	0.57	(0.45-0.72)	0.42	(0.32-0.54)	1.24	(0.96-1.59)	2.33	(1.69-3.21)	1.11	(0.86-1.44)	1.29	(0.77-2.15)	1.97	(1.34-2.90)	6.60	(4.06-10.71)		
専攻科	30	23.3%	75	58.1%	24	18.6%	1.05	(0.65-1.70)	0.67	(0.37-1.22)	1.38	(0.84-2.27)	2.08	(1.44-3.00)	1.97	(1.34-2.90)	7.02	(1.57-31.4)	78.50	(17.2-359.2)				
大学院(修士)	71	15.0%	206	43.5%	197	41.6%	1.22	(0.86-1.73)	2.34	(1.62-3.38)	6.77	(1.55-29.6)												
大学院(博士)	2	1.3%	26	17.2%	123	81.5%	5.48	(1.28-23.5)	51.86	(12.5-214.4)														
職域																								
医療	832	28.7%	1484	51.2%	582	20.1%	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)	1.00	(基準群)		
福祉	492	39.0%	701	55.6%	68	5.4%	0.80	(0.69-0.92)	0.20	(0.15-0.26)	0.64	(0.55-0.75)	0.11	(0.08-0.15)	0.68	(0.58-0.80)	2.48	(1.97-3.12)	0.80	(0.48-1.33)	3.78	(2.91-4.93)		
食育・教育	355	20.1%	807	45.7%	603	34.2%	1.27	(1.10-1.48)	2.43	(2.05-2.87)	1.78	(1.52-2.09)	5.43	(4.39-6.71)	2.48	(1.97-3.12)	0.95	(0.73-1.23)	0.80	(0.48-1.33)	3.78	(2.91-4.93)		
給食	175	48.5%	158	43.8%	28	7.8%	0.51	(0.40-0.64)	0.23	(0.15-0.35)	0.78	(0.61-1.00)	0.65	(0.40-1.06)	1.54	(1.25-1.90)	0.84	(0.66-1.07)	1.32	(0.85-2.06)	0.03	(0.01-0.06)		
行政	171	18.4%	417	44.8%	343	36.8%	1.37	(1.12-1.67)	2.87	(2.32-3.54)	1.54	(1.25-1.89)	3.92	(3.02-5.09)	0.84	(0.54-1.27)	0.85	(0.59-1.22)	0.04	(0.02-0.08)	3.04	(0.50-18.32)		
企業	182	44.5%	182	44.5%	45	11.0%	0.56	(0.45-0.70)	0.35	(0.25-0.50)	0.84	(0.66-1.07)	1.15	(0.82-1.61)	4.78	(3.29-6.94)	0.03	(0.02-0.07)	2.54	(0.89-7.25)				
研究・教育	60	12.8%	131	27.9%	279	59.4%	1.22	(0.89-1.68)	6.65	(4.93-8.96)	1.15	(0.82-1.61)	0.05	(0.03-0.08)	0.04	(0.02-0.07)	0.04	(0.02-0.08)						
フリーランス等	85	76.6%	15	13.5%	11	9.9%	0.10	(0.06-0.17)	0.19	(0.10-0.35)	0.19	(0.10-0.35)	2.95	(0.92-7.48)	2.95	(0.48-18.10)								
その他	5	23.8%	14	66.7%	2	9.5%	1.57	(0.56-4.37)	0.57	(0.11-2.96)														

a. 多項ロジスティック回帰分析によるオッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI)。参照カテゴリは「300万円以下」

b. 性別と年齢 (連続量) を調整したオッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI)

c. 性別・年齢 (連続量) ・主たる業務に必要な資格・最終学歴・職域を説明変数としたオッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI)

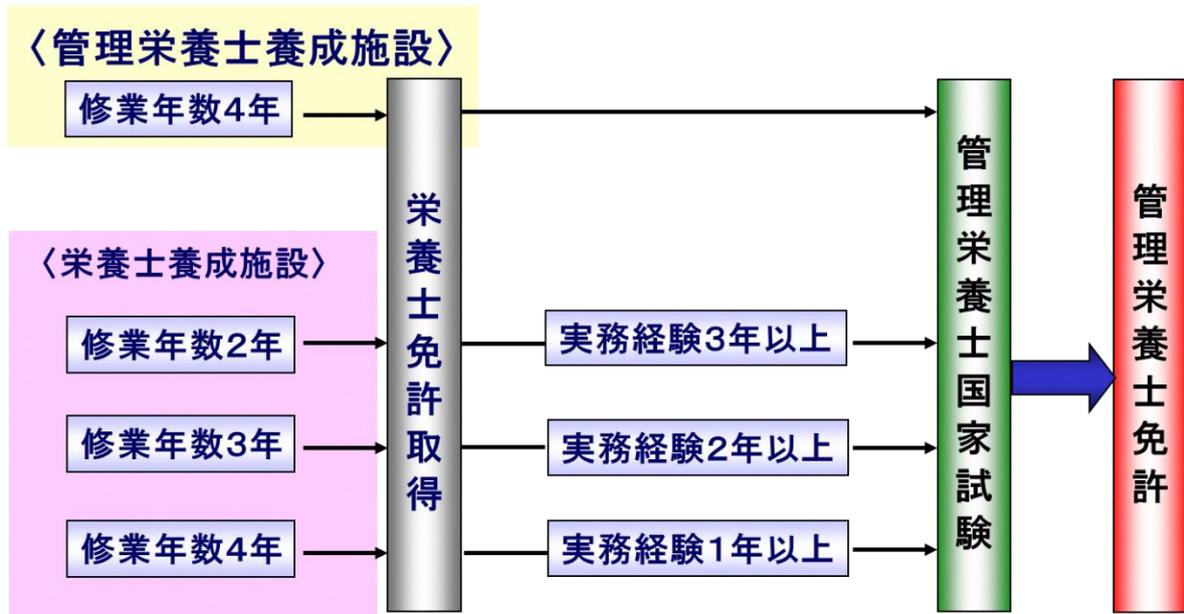


図 1. 管理栄養士免許取得までの流れ